

多文化共生推進プラン 基本理念

問合せ

市民自治推進課  
(TEL 23-7697)

地域の一員として認め合う

## その多様性が しんしろを創る

皆さんは、「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか？

多文化共生とは、日本人も外国人も壁を作ることなく、みんなが地域の一員として認め合い、互いに協力し合いながら地域を発展させていこうという考え方です。

愛知県では、毎年11月を「あいち多文化共生月間」として定め、普及啓発のための取組を行っています。これに合わせて、本市でも啓発活動を行います。

人口の3%が外国人市民

本市に住む外国人市民の人口は、令和6年9月1日時点で1,278人で、その国籍や文化も様々です。

上位の国籍は、1位 ブラジル(454人)、2位 ベトナム(304人)、3位 フィリピン(172人)です。3つの国籍の方で外国人市民人口の約73%を占め、本市の全人口の3%を占めます。

このような中、全ての市民が活躍していくためには、お互いの文化を知り、認め合い、ともに支えあう環境をつくることが重要となっています。

新城市多文化共生推進プラン

本市では、この4月から「新城市多文化共生推進プラン」を施行しています。

外国人市民が言葉や文化の違いを理由に社会的不利益を被ることなく、日本人市民と協力しながら、地域の一員として活躍できる、全ての人が住みよい新城市を目指します。そして、プランを可視化することで、みんなが安心して暮らせる社会の実現に向けて取り組んでいきます。

このプランは、「地域の一員として認め合うその多様性がしんしろを創る」を基本理念に、3つの柱を設け、各種事業を実施します。

〈3つの柱〉

- 1 コミュニケーション支援  
〜伝え合う〜
- 2 生活支援  
〜助け合う〜
- 3 意識啓発と社会参画支援  
〜分かり合う〜

はじめての日本語教室

はじめての日本語教室は、日本語が全く、またはほとんど分からない外国人市民を対象に、新城まちなみ情報センターで開催しています。1回完結型のトピックで、日本人サポーターと一対一の対話で会話を身につけるレッスンです。

本市では、はじめての日本語教室に協力していただけるサポーターを随時募集しています。資格などは一切不要ですので、興味のある方はお問い合わせください。



▲日本語教室の様子



## 生活オリエンテーション動画を 作成しています

転入される外国人市民が、母国語で生活マナーやルール、日常生活全般について理解していただくことを目的に、「生活オリエンテーション動画」を作成しています。

やさしい日本語、ポルトガル語、ベトナム語、タガログ語、中国語、英語の6カ国語で作成し、市役所での手続き（転入、学校、こども園、保健、健康保険、税）、交通安全、バーベキューや騒音などのルール、防災、日本語教室などの案内・周知を行います。

総合窓口にPadを設置するほか、YouTubeで公開し、市ホームページからリンクで案内します。また、転入時のチラシにQRコードを掲載しリンクさせたり、Facebookから閲覧できるようにします。

そして、ごみ出しルールなど、動画で案内することで、日常生活全般のルールをより分かりやすく案内します。



▲ 外国語表記のあるごみステーション

## 多文化共生に係る取組を 紹介します

多文化共生の普及・啓発の一環として、いろいろなイベントや講座を開設しています。今回はその一部を紹介します。

### ● 多国籍運動会 新城ミニリンピック

市内在住の外国人市民と日本人市民が、一緒にくつ取りゲームやだるまさんがころんだ、ポテトサックリレーなどの種目をゲーム感覚でチーム戦で競い交流を図ります。

### ● 外国につながるを持つ子どもと保護者のための教育&マナープラン講座

外国人、外国につながるを持つ生徒と保護者に対して、毎年教育相談会を開催し、子どものキャリア形成、計画的なマナープランの作成方法などを学びます。



▲【上】ミニリンピック【下】教育相談会

## やさしい日本語に挑戦！

皆さんは、「やさしい日本語」と聞いて、どんなイメージを持ちますか。やさしい日本語は、外国人など、日本語があまり得意ではない方に伝わりやすい言葉や表現に言い換えた日本語のことです。

もともと、災害発生時に日本語が不慣れな外国人が適切な行動を取れるように考え出されたものです。現在では平時の情報伝達として使われることも増えています。

市内には20を超える国・地域の外国人市民が暮らしており、それぞれの国・地域の公用語は15言語を上回ります。

実は、外国人市民全体の約70%が日本語を理解できる、もしくはゆっくりなら理解できるのです。

外国語が分からない日本人でも、やさしい日本語のルールさえ習得できれば、コミュニケーションツールとしては大変有効的です。

やさしい日本語に正解はありません。相手に合わせた会話を目指しましょう。いつも顔を合わせる外国人に挨拶をしてみる、まずはそこから始めてみましょう。

それでは、やさしい日本語を上手に使うポイントを紹介します。

### ① 必要な情報を選ぶ

長い文章の中から、ポイントを絞って伝えたい情報を選びましょう。

### ② 一つの文を短く

短い言葉で区切ると伝わりやすくなります。

### ③ 主語述語を明確に

「誰が」「どうする」を明確に！

### ④ 簡単な言葉を使う

「記入する」▼「書く」  
「氏名」▼「名前」  
「申し上げる」▼「言う」

### ⑤ 曖昧な表現は避ける

「変更できない事はない」▼「変えることもできる」



今回は、夢や目標を持ち、新城で充実した生活を送る皆さんにスポットを当て、お話をお伺いしてきました。勤労青少年ホーム内で多文化共生の拠点を目指してオープンした「Friend's Café」の店長リベイロ・ジェシカさんとオーナーの田村純子<sup>たむらじゅんこ</sup>さん。市内カワイ製作所に勤務する技能実習生のアルビンさん(男性)とグレイスさん(女性)です。出身、言葉、文化は異なりますが、しんしろの地に足をつけ、しっかり地域に溶け込もうとしています。

## ～ボーダーのない みなが安心して住めるまちへ～

いいところは、新城のまち自体が落ち着いた印象、悪いところというと、何もないところかな。(笑)でも、幼い時は、市民プールもあった、豊川や豊橋の友達も一緒にプールに行ったりして楽しい思い出がたくさんあります。

Q 新城の印象を聞かせてください。

生まれたのはブラジルですが、赤ちゃんの時に日本にきました。最初は3歳ぐらいまで大阪、その後新城に引っ越してきました。

Q Friend's Café店長のリベイロ・ジェシカさん。ジェシカさんはどちらの出身ですか？

～手作りの雰囲気を感じる  
あたたかな空間～

## Friend's Café

Q [Friend's Café] を始めて、  
つたきつけは？

もともと10年ぐらい前から母親の影響で、スイーツを作っていて、友だちや家族に振る舞っていて、た。そこから田村さんや皆さんに食べてもらう機会があつて。皆さんがすごく褒めてくれて、「お店で出せるんじゃない？」って言うてくれたんです。それがカフェをやってみようというきっかけでした。

Q 店をオープンした今のお気持ち  
をお願いします。

7月23日にオープンしてもうすぐ3カ月が経ちます。

嬉しいのは、日本人のお客様が本当にたくさん来てくださることです。

来店される70%が日本人で、市内のお年寄りも朝からモーニングに来てくださり、ポン・デ・ケージョ(チーズのパン)とコーヒーが丁度いいと評判なんです。お年寄りの方たちは、いろんなメニューにチャレンジしてくれるんですよ。

みんなの  
憩いの場所

まちの  
見守り役

Q 「こども110番の家」にも指定されたんですね？

そうなんです。市内の外国人が営んでいるお店でこども110番



▲ コシーニャ (ブラジル風コロッケ) の仕込み中

毎週土曜日の朝に市外から来てくださるお客様もいたりして。その方はラジオで聞いて知ったそうです。そうやって興味を持ってくださる方がたくさんいて本当に嬉しいです。

コミュニケーションカフェというか、いろんな人が気軽に集まることのできる場所でありたいですね。





の家の登録店舗になったのは、End's Cafeが最初です。ここが子ども110番の家に登録されたことよって、市内の日本人の子どもはもちろん、言葉が分からない外国籍の子どもたちも安心して頼ることができるのではと期待しています。助けて欲しいときはもちろん、ただの雨宿りだって大歓迎です！子どもたちにとって心強い存在でありたいですね。

### 共生社会の 第一歩に

Q オーナーの田村さんは、新城市多文化共生協会の理事としても活躍されていますが、協会の趣旨を教えていただけますか？

多文化共生協会は今まで主流だった国際交流から一歩進んだ、共に暮らしていける「共生」できる場所を創っていくことを目指しています。どの国の方に対しても、同じ地域に住んでからこそ同じ志を持ちながら役割分担して協力していける関係を築いていきたいですね。子どもたちは、小さい頃から外国籍の子と接していることが多く、ボーダー

ラインがないと思うんです。大人も線を引くことなく、これからも国籍問わず一緒に、私たちがそのボーダーを下げていってあげたいという気持ちで活動しています。

Q お二人にとって、新城市の多文化共生社会の将来像を教えてくださいいただけますか？

子どもたちも言葉の壁があると同じ国同士で固まりがちだけど、そういうことがなく、いろんな国籍の方が同じ学校や職場で過ごしている、言葉の壁を越えて、当たり前前に「人と人」としておつきあいができる新城市になって欲しいですね。



▲ ジェシカさん（左）と田村さん（右）

### 市内の企業で大活躍！ 技能実習生にインタビュー

市内には、技能実習生として単身日本に来日し、企業で頑張っている外国人の方がたくさんいます。今回は、市内の企業「カワイ製作所」で働く技能実習生にインタビューしてきました！

● お二人はどちらから来日されましたか？

二人…フィリピンから来ました。

● 日本とフィリピンで似ているところはありますか？

二人…全然違います。文化も食事も気候も全然違う。

● 日本に来たきっかけは？

二人…働いてお金を稼ぎたいと思ったのがきっかけです。

● 新城に来て住みやすいと感じることはありますか？

アルビンさん…静かで落ち着いているところです。

グレイスさん…優しい人がたくさんいるところです。

● 日本人の友人はいますか？

二人…はい、います！

● お休みの日は何をしていますか？

アルビンさん…掃除したり、あとかくさん寝ます。（笑）

グレイスさん…家で料理をし

ます。フィリピン料理です。

● それでは最後に、お二人の今後の目標を教えてください。

アルビンさん…お金を貯めたらフィリピンに帰って、自分でビジネスを始めたいです！

グレイスさん…私もお金を貯めて、フィリピンで食べ物のお店をやってみたいです！



▲ アルビンさん（左）とグレイスさん（右）

市内で活躍される外国人市民の皆さんは、素敵な夢や目標を持ち、新城で充実した生活を送っていました。この他にも、市内にはたくさんの方々が活躍しています。

市は、これからも彼らの活躍に注目し、日本人市民と分かち合い、地域社会とつながるしくみづくりに取り組んでいきます。